

医療機関ネットワーク事業情報からみた 高齢者の家庭内事故



医療機関ネットワーク事業(※)に寄せられた事例から、

- 高齢者の家庭内事故の**約半数**が「**転倒・転落**」です。
- **75歳以上**は「**窒息**」の事故件数が増えます。
- 事故の**約3割**が**骨折**や**頭蓋内損傷**など、長期治療を要する症状でした。

主な事例と事故の予防

事故の種類	主な事例	予防のポイントと複合対策
転倒・転落	＜転倒＞ 歩行器使用中に転倒し、二の腕の付け根部分を骨折。 (80歳代)	身体的対策： 筋力の衰えを自覚 し、自治体の「転倒予防教室」などでバランス能力を養いましょう。
屋外作業	＜屋外作業＞ 高さ1mのはしごから転落、急性硬膜下出血に。 (80歳代)	危険な作業は無理せず専門家へ！：庭木の剪定や 高所の作業 は、 無理せず 専門業者への依頼も検討してください。
やけど 	＜暖房機器＞ ストープの前で居眠りをしてしまい、やかんの蒸気で顔面に熱傷を負った。 (80歳代)	温度管理の徹底： 熱さの感覚の鈍化 に注意してください。調理時は 袖口に注意 するなど、温度管理を徹底してください。
誤飲・誤嚥 	＜洗剤＞ 柔軟剤をペットボトルに入れ替えて使用していたため誤飲。重症肺炎となる。 (90歳代)	危険物の隔離：洗剤・薬品は 手が届かない場所に保管 してください。ペットボトルへの二次利用はしないでください。餅は小さく切り、 よく噛んで 食べましょう。

万一のための緊急初期対応

事故の種類	救急車到着までの初期対応
誤飲・誤嚥	無理に吐かせず 、飲んだ物の製品名、量、時間を救急隊に伝える。
窒息	背部叩打法 や 腹部突き上げ法 を交互に繰り返す。
やけど	衣服の上から 流水 で 15～30分冷却 （氷や無理な剥離は厳禁）。

(※) 医療機関ネットワーク事業：(独)国民生活センターは、消費者庁と共同で、平成22年12月より、医療機関(令和7年10月時点で32機関が参画)から事故情報の提供を受けています。